

CSR Report 2013

Corporate Social Responsibility

Value Integrator

豊かな未来の種を、リース&ファイナンスの力で育てていきます。



◇表紙について

種を育て花を咲かせるように、お客さまのさまざまなニーズをリース&ファイナンスの手法で解決し、お客さまと共に豊かな未来を実現するという三菱UFJリースの想いを表現しています。

◇発行月

2013年7月

◇対象範囲

三菱UFJリース株式会社、及びグループ会社の取り組みを対象としています。

◇対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)
(一部、対象期間外の活動を含んでいます)

◇関連公表資料

当社の商品・サービス及び当社に関する各種情報につきましては、ホームページ上に掲載しておりますので、下記URLもご参照ください。

HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/>

◇お問い合わせ先

三菱UFJリース株式会社 広報IR部
東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング
TEL 03-6865-3002



三菱UFJリースはCSRレポートの印刷工程(原材料の調達～印刷工程)において発生するCO₂を、カーボンオフセットしています。
プロジェクト名: LED照明設備の導入によるCO₂削減事業
オフセット数量: 3tCO₂
詳しくは当社ホームページをご覧ください。



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。*VOC(揮発性有機化合物: Volatile Organic Compounds)

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。



コーポレートメッセージ
 三菱UFJリースのコーポレートメッセージ「Value Integrator」には、「複数の有形・無形資産=現在価値 (Value) を、リース&ファイナンスという手法で統合 (Integrate) し、新たな価値を創造していく」という思いを込めています。

Value Integrator

ステークホルダーのみなさまと共に歩み、豊かな社会づくりに貢献します。

会社概要 (2013年3月31日現在)

◇商号
 三菱UFJリース株式会社
 (Mitsubishi UFJ Lease & Finance Company Limited)

◇本社
 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

◇設立
 1971年4月12日

◇事業内容
 各種物件のリース
 各種物件の割賦販売
 各種ファイナンス業務/国際業務 他

◇資本金
 33,196,047,500円

◇従業員数
 2,402名(連結)
 1,237名(単体)

◇上場証券取引所
 東京証券取引所 市場第一部
 名古屋証券取引所 市場第一部

◇決算期
 3月31日

財務指標



三菱UFJリースネットワーク



- ◇国内
- 本社
 - 名古屋本社
 - 新川オフィス
 - 新宿営業部
 - 札幌支店
 - 東北支店
 - 大宮支店
 - 千葉支店
 - 上野支店
 - 五反田支店
 - 池袋支店
 - 立川支店
 - 横浜支店
 - 刈谷営業部
 - 北陸支店
 - 岐阜支店
 - 浜松支店
 - 静岡営業所
 - 沼津支店
 - 四日市支店
 - 大阪オフィス
 - 京都支店
 - 神戸支店
 - 岡山支店
 - 四国支店
 - 広島支店
 - 九州支店
 - 南九州営業所



- ◇海外
- [アジア] ● Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Hong Kong) Limited
 ● Mitsubishi UFJ Lease & Finance (China) Co. Ltd.
 ● Bangkok Mitsubishi UFJ Lease Co., Ltd.
 ● PT. Mitsubishi UFJ Lease & Finance Indonesia
 ● Mitsubishi UFJ Lease (Singapore) Pte. Ltd.
 ● ホーチミン駐在員事務所 Ho Chi Minh City Representative Office
- [北米] ● Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc. <Head Office>
 ● Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.) Inc.<Los Angeles Branch>
 ● Jackson Square Aviation, LLC
 ● ニューヨーク駐在員事務所 New York Representative Office
- [欧州] ● Mitsubishi UFJ Lease & Finance (Ireland) Limited
 ● MUL Aviation Capital Limited

INDEX

- ▶ コーポレートメッセージ 1
- ▶ 会社概要 2
- ▶ トップコミットメント 3
- ▶ 三菱UFJリースのサービスソリューション 5
- ▶ CSR経営の考え方 7
- ▶ 特集1 世界に広がる三菱UFJリースグループの機能提供 9
- ▶ 三菱UFJリースのCSR 11

- ▶ 特集2 三菱UFJリースグループの多彩なビジネス 15
- ▶ お客さまとともに 17
- ▶ 株主・投資家のみなさまとともに 19
- ▶ 社員とともに 20
- ▶ 地域社会とともに 23
- ▶ 環境のために 26

◇編集方針
 三菱UFJリース及び三菱UFJリースグループは、CSR(企業の社会的責任)に関する取り組みをステークホルダーのみなさまにご報告するため、毎年CSRレポートを発行しています。
 今回の特集では、本業を通じた社会的貢献を目指す当社の活動を、「グローバルな拡がり」と「事業の拡がり」という二つの視点からご紹介しています。「グローバルな拡がり」では、海外ネットワークの拡大やサービスの充実、グローバル人材の育成などの取り組みをお伝えしています。また、「事業の拡がり」では、モノを扱う事業の特性を活かして、グループ各社がそれぞれの専門性を発揮しながら社会や環境に貢献する活動などを取り上げています。当社では、CSRレポートを通じてステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを活性化させたいと考えています。ぜひ忌憚ないご意見・ご感想をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

さまざまな事業を通じたCSR活動の推進により 豊かな社会の実現に貢献します。

はじめに

東日本大震災の発生から2年が経過しましたが、いまだに困難な生活を強いられている被災地の方々や、不自由な経済活動を余儀なくされている企業が多くいらっしゃいます。三菱UFJリースは、被災地の復旧と、その後の復興を支援していくことが企業としての使命であると考え、引き続き、事業を通じた支援活動をグループ全体で展開してまいります。また、震災発生以降、日本のエネルギーの在り方について見直されている中で、再生可能エネルギーの普及推進は、わが国の重要な政策のひとつとなっています。日本経済の発展を長期的に支えていくために、新しいエネルギーのかたちを考え、そして、環境負荷の少ない再生可能エネルギー普及に向けた取り組みを今後も積極的に推進してまいります。私ども三菱UFJリースはグループ会社とともに、事業を通じたさまざまなCSR活動を推進することで、豊かな社会の実現に貢献してまいります。

経営理念の実現に向けて

三菱UFJリースでは、ステークホルダーであるお客さま・株主さま・地域社会・社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献することを経営理念に掲げています。ステーク

ホルダーのみなさまとの信頼関係をより確かなものとするため、当社では、コーポレート・ガバナンス体制やコンプライアンス体制、情報セキュリティの強化に努めております。また、自然災害や人為災害、事故・障害などが発生した際においても、経営に与える影響を最小限に留めながら、お客さまの事業継続に向けた活動に貢献するべく、危機や災害に対応する各種マニュアルの整備や危機発生時を想定した訓練の実施など、危機発生に備えたマネジメント活動を実践しております。2013年4月には、当社のこれらの取り組みが高く評価され、日本政策投資銀行（DBJ）より「DBJ BCM格付」を金融会社として初めて取得しました。今後も、より実践的な事業継続計画の整備や訓練による実効性を向上させるなど危機管理体制をさらに充実させることで、お客さまに安全で安定したサービスをご提供してまいります。

当社では、確かな経営を実践する上で社員がやりがいを持って働くことが重要であると考え、働きやすい環境づくりに着手しております。2012年10月には、厚生労働省が主催する、仕事と育児・介護が両立できるさまざまな制度を持ち、多様かつ柔軟な働き方を推進している企業を表彰する制度「均等・両立推進企業表彰」のファミリー・フレンドリー企業部門において東京労働局長奨励賞を受賞しました。今回の受賞では、当社の「出産・育児支援制度」に

おける産前産後休業が法定休業期間を上回る基準を設けている点や、社員がより使いやすい制度にするために社内意識の醸成に積極的に取り組んでいる点などが高く評価されました。性別・年齢・国籍などの属性やライフイベントに関わらず、多様な働き方を実現し、社員一人ひとりが力を発揮し働くことができる環境づくりを目指してまいります。

事業を通じたCSR活動の推進

昨年度は、中期経営計画「Vision2013」において重点事業と位置づける、「海外事業」や「グローバルアセット事業」、「省エネ・環境事業」、「医療・介護事業」の取り組みを加速してまいりました。例えば、「省エネ・環境事業」では、電力消費の多い施設を対象に省エネ化をトータルでサポートするESCO（Energy Service Company）事業や、太陽光発電設備の普及に向けた取り組みを国内外問わず幅広く展開してきました。また、「グローバルアセット事業」では、今後、輸送旅客量の増大に伴い需要拡大が見込まれる航空機リースの事業強化を目的として、2013年1月に、米国を主な拠点として世界各国の航空会社へアクセスできる強固な事業基盤を有する航空機リース会社JSA International Holdings, L.P.の全出資持分を取得しました。航空機リース分野での提供機能を拡充す

ることで、今後の航空サービス発展に世界規模で貢献してまいります。

今後も、特定の商品や機能に拘らない多様なソリューションをご提供することで、お客さまが行う事業活動をグループを挙げて幅広くサポートしていく所存です。

ステークホルダーの信頼に応える

三菱UFJリースがリース&ファイナンスの手法を駆使して、社会的責任を果たし、信頼に応えていくためには、ステークホルダーのみなさまの声に耳を傾けることが不可欠であると考えています。当社のCSR活動の状況をステークホルダーのみなさまへお伝えするためCSRレポートとしてまとめておりますので、ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年7月

代表取締役社長

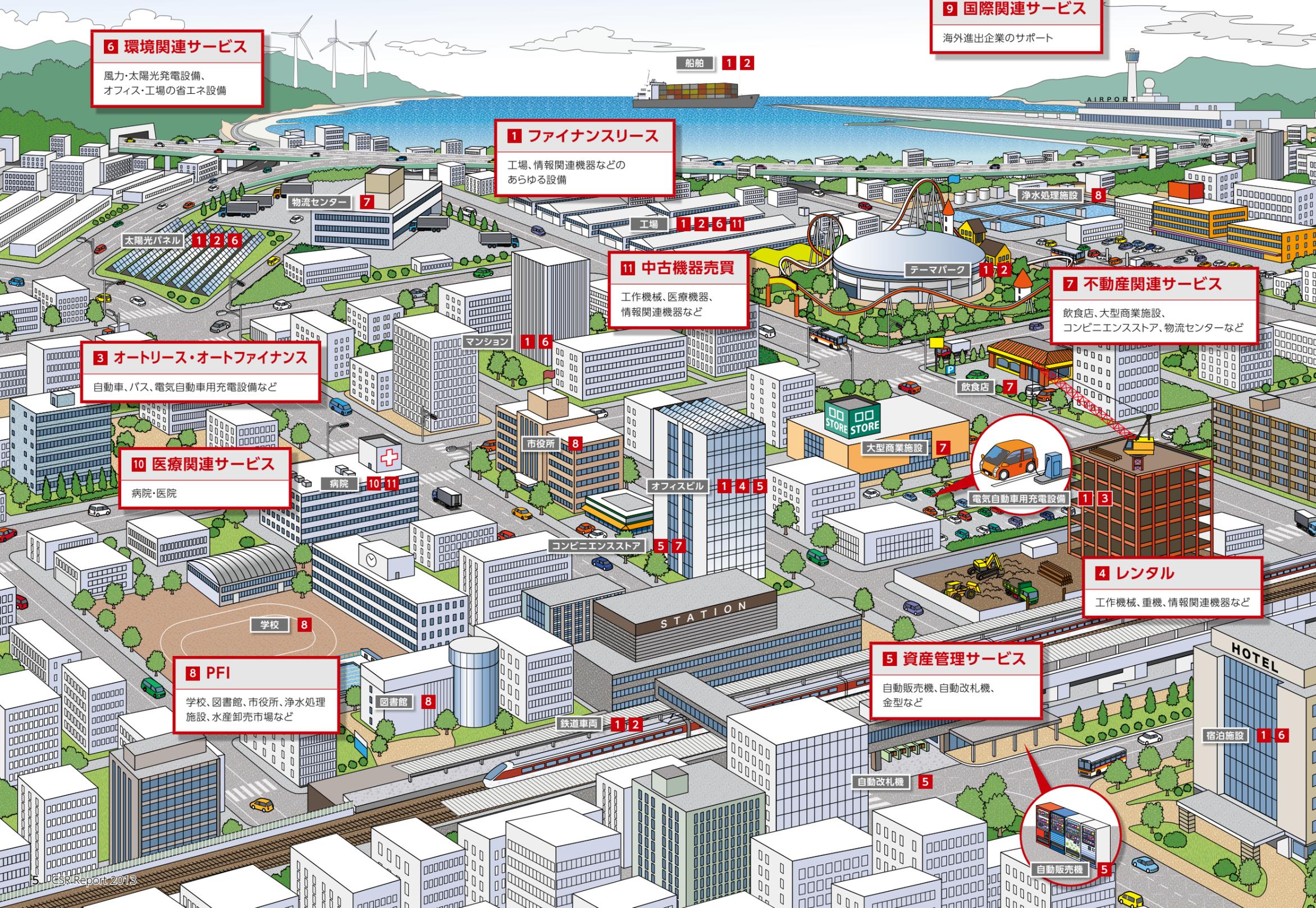
白石 正

暮らしをサポートする三菱UFJリース

～三菱UFJリースのサービスソリューション～

日常、街で見かけるショッピングセンターやコンビニエンスストア、オフィス、病院、あるいは自動改札機やATM、自動車、航空機など――街暮らしの中にあるこうした身近な施設や設備の導入・管理・運営を、私たちはリース&ファイナンスの手法を駆使してサポートしています。三菱UFJリースは、総合ファイナンスカンパニーとして、

リース・レンタルをはじめ、環境関連サービス、不動産関連サービス、PFI、国際関連サービス、中古機器売買など幅広い商品・サービスを展開しています。潜在する価値を確かな未来価値に高めていくValue Integratorとして、三菱UFJリースはみなさまの身近なところから豊かな社会をしっかりと支えています。



6 環境関連サービス
風力・太陽光発電設備、
オフィス・工場の省エネ設備

1 ファイナンスリース
工場、情報関連機器などの
あらゆる設備

11 中古機器売買
工作機械、医療機器、
情報関連機器など

3 オートリース・オートファイナンス
自動車、バス、電気自動車用充電設備など

10 医療関連サービス
病院・医院

8 PFI
学校、図書館、市役所、浄水処理
施設、水産卸売市場など

2 オペレーティングリース
航空機、船舶、工場設備など

9 国際関連サービス
海外進出企業のサポート

7 不動産関連サービス
飲食店、大型商業施設、
コンビニエンスストア、物流センターなど

4 レンタル
工作機械、重機、情報関連機器など

5 資産管理サービス
自動販売機、自動改札機、
金型など

1 ファイナンスリース

効率的な資金運用、事務管理のアウトソーシングによる業務効率の向上をサポートし、物件導入における新たな価値をご提供します。

2 オペレーティングリース

リース期間満了後の物件価値をあらかじめ物件の元本から控除し、リースすることで設備の導入コスト軽減を図ります。また、工場の生産ラインから航空機、船舶に至るまで機動的な設備導入をご希望するお客さまのさまざまなニーズに柔軟にお応えします。

3 オートリース・オートファイナンス

現状分析に基づいたコンサルティングにより、車両管理業務の合理化を図り、管理負担の軽減、コストコントロール、リスクの軽減など、最適な車両マネジメント体制の構築をサポートします。

4 レンタル

情報関連機器、工作機械、計測器のレンタルなど、三菱UFJリースグループの各種在庫や専門サービスにより、多種多様なレンタルニーズに対応します。

5 資産管理サービス

リースの見積から契約・変更・満了手続きや情報照会など、一連の手続きをインターネット上で一元管理できる“e-Leasing Direct”をご提供します。各種フローをインターネット上で履歴化することで、内部統制対策としてもご利用いただけます。

6 環境関連サービス

工場・ビルなどの省エネルギー化をご提案するESCO (Energy Service Company) 事業をはじめ、排出権関連サービス、グリーン電力を利用したグリーンリース、再生可能エネルギーの各種ファイナンスなど、各種環境ソリューションをご提供します。

7 不動産関連サービス

事業用借地権を活用した“シンフォニー (建物リース)”や、商業、オフィス、物流用不動産を対象とした不動産関連ファイナンスなど、さまざまなサービスをご提供します。

8 PFI

社会資本整備に民間の資金・ノウハウを活用するPFI (Private Finance Initiative)。公共施設の整備運営に対するファイナンス提供から、プロジェクト全体のコーディネートまでサポートします。

9 国際関連サービス

海外での事業展開に必要な設備投資のファイナンスサポートや、貿易手続きのサポートなどを行っています。各国の法律や税制に基づき、最適なソリューションをご提供します。

10 医療関連サービス

最先端医療機器のリースから、診療報酬ファクタリング、新規開業支援、中古医療機器の売買に至るまで、病・医院運営をトータルにサポートします。

11 中古機器売買

専門のグループ会社を通じて、半導体製造設備や工作機械、医療機器、情報関連機器などを取り扱い、機動的な設備導入をご希望とするお客さまをサポートします。また、リース満了物件の売却も行っています。

CSR経営の考え方

環境・社会・経済における社会的責任に取り組み
すべてのステークホルダーから信頼され続ける企業に。

経営理念

お客さま、株主さま、社員からの信頼に応え、
豊かな社会の実現に貢献します。

- お客さまにベストソリューションを提供し、
企業価値の持続的向上に努めます。
- 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、
地域・社会の発展に貢献します。
- 社員一人ひとりが意欲と誇りを持って活躍できる
環境を提供します。

経営ビジョン

金融と商流を融合した事業金融分野で
圧倒的なリーダーを目指す。

高度で洗練された「事業金融機能」の提供を通じて、
「モノ」、「サービス」、「情報」、「資金」、といった「財」
を相互に結びつけるコーディネーターとなり、お客
さまにとって真に価値あるサービスを提供し、すべ
てのステークホルダーに貢献する企業であること
が、三菱UFJリースの存在価値です。

Value Integrator

ステークホルダー



お客さま

▶ P17へ

お客さま満足度の向上のために、高い専門性と
チャレンジ精神を持って、多様な金融サービスを
駆使してお客さまの課題に最適なソリューションを
ご提供します。



株主・投資家

▶ P19へ

正確・公平・タイムリーな情報開示に取り組み、株
主・投資家のみならずとの対話を推進します。それ
により、経営の透明性を高め、企業価値の持続的
向上に努めます。



社員

▶ P20へ

社員一人ひとりのキャリア形成や自己啓発を支援
し、人材の育成を図ります。また、誰もが誇り
を持っていきいきと働くことができる職場環境づく
りを推進します。



地域社会・環境

▶ P23・26へ

地域社会の一員として環境保全などの社会貢献活
動に積極的に取り組み、人・企業・環境が「共生」で
きる豊かな社会づくりに寄与します。

経営理念

経営ビジョン

行動指針

経営戦略

Vision 2013

行動指針

- 三菱UFJリースならではの
リスクテイク
金融機能と商社機能を持ち併せた
「三菱UFJリース」ならではのリスクテイク
- 課題解決に向けて果敢にチャレンジ
お客さまの課題への嗅覚を磨き、失敗を
恐れず解決に向け果敢にチャレンジ
- 戦略を伴ったスピーディーな行動
さまざまな戦略に基づくスピーディーな
行動
- ソリューションを実現する専門性
お客さまの課題を解決する真に価値ある
ソリューションを実現する専門性の向上
- 社会的責任への真摯な取り組み
すべてのステークホルダーからの
信頼確立に向けた真摯な取り組み

経営戦略

■ 経営戦略／成長戦略

- バリューチェーン上の提供機能拡大と
多様なアセットリスク・事業リスクテイク
による三菱UFJリースならではの
サービス拡大
- グローバルベースでの事業展開の加速
- お客さま接点の強化
- 外部成長戦略の推進

■ 経営戦略／経営基盤強化戦略

- 経営管理の高度化
- 営業力の強化と手法の高度化
- 効率性の追求
- IT戦略の強化
- 新たな企業風土の醸成
- 人材マネジメントの改革
- 信頼の確立



世界中で利用されている航空機

グローバルアセット事業の拡大 (航空機リース事業)

グローバル市場で価値の高い、流通性や汎用性に優れたグローバルアセットの拡大を図っています。特に今後高い成長性が見込まれる航空機リース事業のさらなる拡大を目指し、2013年1月には大手航空機リース会社JSA International Holdings, L.P.を新たにグループの一員に加えるなど営業体制の増強を図りました。これによりグループ全体の航空機保有数は約100機規模の体制となりました。今後、輸送旅客量の増大に伴い需要拡大が見込まれる航空機リース事業の推進を通じて、世界規模での航空サービス発展に貢献してまいります。

中国で建設機械リースの 合併事業を開始

2012年12月、三菱UFJリースは中国において、三菱商事(株)とともに建設機械リース事業に本格参入しました。経済成長に伴いインフラ整備が加速的に進んでいる中国では、建設機械の中長期的な需要拡大が見込まれています。三菱商事(株)の現地に精通したビジネスノウハウと、当社のリース事業に関する専門性を組み合わせながら、建設機械リース事業を通じて中国のインフラ整備に貢献しています。



国際工作機械見本市

2012年5月、タイのバンコクで行われた国際工作機械見本市「INTERMACH2012」に出展しました。世界35カ国から1,200社以上の出展企業が集まるイベントにおいて、三菱UFJリースは多くのお客さまと事業発展に向けた活発な面談を行いました。



国際工作機械見本市

海外事業進出サポート

日本企業の海外進出が加速し、海外でのビジネスをスムーズに進めるためのサービスを求める声が増えています。三菱UFJリー

スグループでは、現地法人が中心となり各国の制度や商慣習に対応した各種ファイナンスサービスなどをご提供することで、お客さまの海外進出をサポートしています。



Mitsubishi UFJ Lease (Singapore) Pte. Ltd. (MULS)
アシスタントマネージャー
中井 浩平

VOICE 海外現地法人(シンガポール)で働く社員の声

海外現場の空気を感じながら仕事をしたいという希望と、ビジネス、職場、生活などの環境を変えることで自身を成長させたいという想いを胸に海外へ赴任しました。現在、シンガポールをはじめ、ベトナム、タイ、マレーシア、フィリピンなど周辺諸国の日系企業などを訪問して、設備投資の手法や国をまたいで設備を移転する際の手続きなどのご相談を承っています。シンガポールは、資金調達環境、立地、税制などの面から見て、周辺諸国とのファイナンス取引が行いやすく、さまざまな国に対するクロスボーダーファイナンスを行うことができます。お客さまの海外におけるビジネスの発展に少しでもお役に立ちたいと思っています。



オフィスからの風景(シンガポール)

特集 1 世界に広がる 三菱UFJリースグループの機能提供

三菱UFJリースグループは、海外ネットワークの拡大やサービスの充実、グローバル人材の育成などを進めながら、経済活動のグローバル化に伴い、多様化・複雑化する海外に関するお客さまニーズに積極的に対応しています。



ユーマシン(タイ)のヤードで展示されている中古機械

ユーマシンがタイへ進出

三菱UFJリースグループの中古機械商社であるユーマシンは、海外初となる現地法人「ユーマシン(タイ)」をタイのバンコクに設立しました。世界の工場として多くの製造業が生産拠点を構えるタイでは今、設備投資が伸びています。その中で、初期コスト削減や納期短縮が図れる中古機械ニーズが大きく増加しており、ユーマシン(タイ)では、日本で培ったノウハウを活かして、良質な中古機械をご提供しています。

VOICE ユーマシン(タイ)社長の声



ユーマシン(タイ)社長
相馬 啓宏

本との連携によって、使用期間が5年程度の良質な中古機械を安定的にご提供することができますので、この強みを活かしながら、タイで事業拡大を図っていくお客さまをサポートしていきたいと考えています。

タイで流通している中古機械の多くは15~20年ほど経過したものが多く、タイで事業を行っている日系企業が求めている新しい年式の機械を入手するのは困難です。その点、ユーマシン(タイ)は日本との連携によって、使用期間が5年程度の良質な中古機械を安定的にご提供することができますので、この強みを活かしながら、タイで事業拡大を図っていくお客さまをサポートしていきたいと考えています。

日中ものづくり商談会

2012年9月に中国・上海で開催された「日中ものづくり商談会@上海2012」に出展しました。中国ビジネス拡大を目指す日本の製造業と、中国企業・在中国日系企業との商談の場で、来場者数は10,000名以上と昨年を大きく上回る大商談会となりました。三菱UFJリースは、昨年に続き2回目の出展で、さまざまな業種のお客さまとの対話を通じて、中国で事業を行うお客さまが抱える課題の把握に努めるとともに、課題に対する解決策について面談を行いました。

日中ものづくり商談会



タイにおける再生可能エネルギー普及プロジェクトをサポート

再生可能エネルギーの開発・推進は、世界中で広がっています。日射量が日本の約1.4倍あるタイでは、今後の経済発展に伴う電力需要拡大を見据え、太陽光発電を新たな電力源として国を挙げて普及促進しています。三菱UFJリースは、タイの現地法人を通じ、タイで実施されるメガソーラー発電プロジェクトで導入される発電設備を対象としたプロジェクトファイナンス型リースを組成いたしました。本件プロジェクトは、最大出力2メガワットの発電容量を持つプラントが生み出す電力を、20年間にわたりタイ地方電力会社に売電します。

ナショナルスタッフ(NS) 集合研修

三菱UFJリースの海外事業を担う現地採用社員・ナショナルスタッフ(NS)7名が東京に集い、3日間にわたる研修を行いました。各国特有の課題や、共通するテーマについて議論を深め、情報共有を図ることで、海外でのサービス品質の向上を目指しています。また、NS同士の交流を深めることで、当社グループ内のコミュニケーション活性化にもつなげています。



ナショナルスタッフ集合研修

VOICE ナショナルスタッフ(NS) 集合研修参加者の声



PT. Mitsubishi UFJ Lease & Finance Indonesia (MULI)
人事・総務担当マネージャー
エルファ
ハフィアンティ

毎日の業務からはなかなか知ることができないことを、研修においてさまざまなテーマのレクチャーを受けることで、知識の幅を広げることができました。また、他国のNSとも知り合うことができ、とても有意義で充実したプログラムでした。

太陽光発電プラント

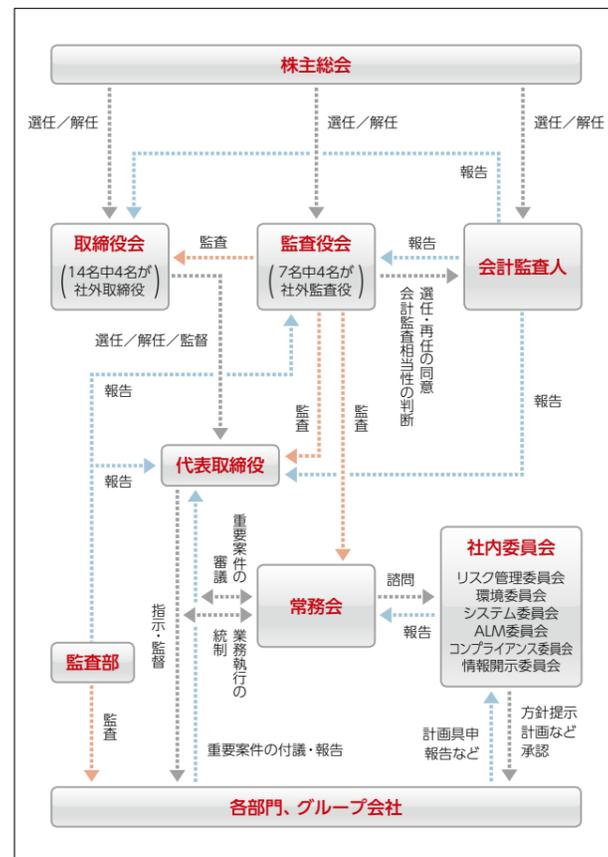


三菱UFJリースのCSR

コーポレート・ガバナンス

三菱UFJリースでは、コーポレート・ガバナンスの強化を図り、経営の透明性・健全性の向上に努めています。取締役会は14名の取締役で構成され、そのうち4名が社外取締役です。取締役会は定時開催に加え、必要に応じて機動的に臨時取締役会を開催し、迅速かつ確かな意思決定を行っています。また、当社では執行役員制度を導入しており、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確に分離しています。取締役の業務執行をチェックする監査役会は、7名の監査役で構成されており、そのうち4名は社外監査役です。監査役は必要に応じて会計監査人・内部監査部門などと緊密に連携し、取締役による業務執行の適正性と健全性を監督しています。

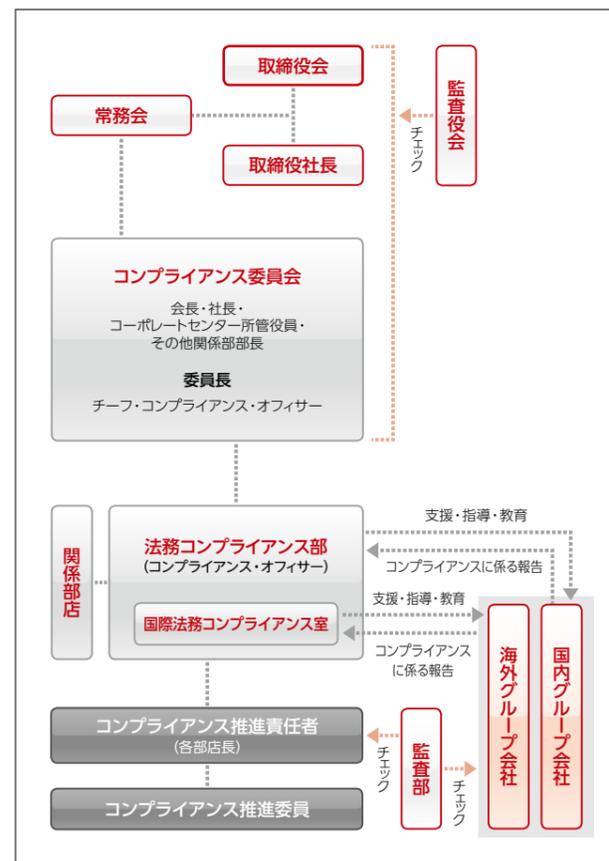
◆コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス体制

コンプライアンスの重要性が高まる中、三菱UFJリースではコンプライアンス体制の強化を重要な経営課題として捉えています。3ヶ月ごとに「コンプライアンス委員会」を開催し、コンプライアンス状況の点検・監査、各種施策の実施状況の確認を行うほか、全社的な統括責任者として「チーフ・コンプライアンス・オフィサー(法務コンプライアンス部所管役員)」を置き、法務コンプライアンス部が各店舗に対してコンプライアンスの支援・指導・教育を行っています。さらに、その実施状況を監査部が定期的に監査し、コンプライアンス体制の実効性をより高めています。また、万一の事態に備え、「コンプライアンス・リスクマップ」を作成。事業を取り巻くリスクを抽出して発生頻度と影響度合いを分析することで、リスクの把握と管理、危機回避、危機発生時の適切な対応に努めています。

◆コンプライアンス体制図



コンプライアンス意識の向上

コンプライアンス体制の強化には、社員一人ひとりの意識向上が欠かせません。三菱UFJリースでは、新任管理職や新入社員向けの研修をはじめ、各階層に応じた研修を定期的実施し、コンプライアンスに対する意識強化に努めています。また、各店舗にはコンプライアンス推進委員を置いています。推進委員は、毎年全社で実施する「コンプライアンス推進委員研修」に参加します。この研修では、インサイダー取引規制の再確認や、貸金業法をはじめとする関係法令の遵守など、コンプライアンスにおける重点テーマについて確認を行っており、推進委員は研修の内容を各店舗のメンバーに周知徹底するなど、全社レベルでコンプライアンスの実践・推進を図っています。また、コンプライアンス意識の向上には、風通しの良い職場づくりも重要です。組織内の意識・行動が鍵となるため、コンプライアンス推進責任者である部長向けの研修を行うとともに、各職場のコミュニケーションを高める取り組みも継続しています。こうした取り組みの実践度を測るために、e-ラーニングを利用して、3ヶ月ごとに社員のコンプライアンスセルフチェックを実施しています。一部業務については、法務コンプライアンス部が各店舗を訪問して業務運営状況を確認しています。

法務勉強会

主に若手の営業担当者を対象に法務勉強会を開催しています。2013年4月に改正施行された「改正犯罪収益移転防止法」について、営業を中心とした全社員を対象に事前に勉強会を開催しました。定期的な勉強会に加え、法律改正などがある場合は、迅速に勉強会を開催するなど、周知徹底を図っています。



IFRS (国際会計基準) 対応

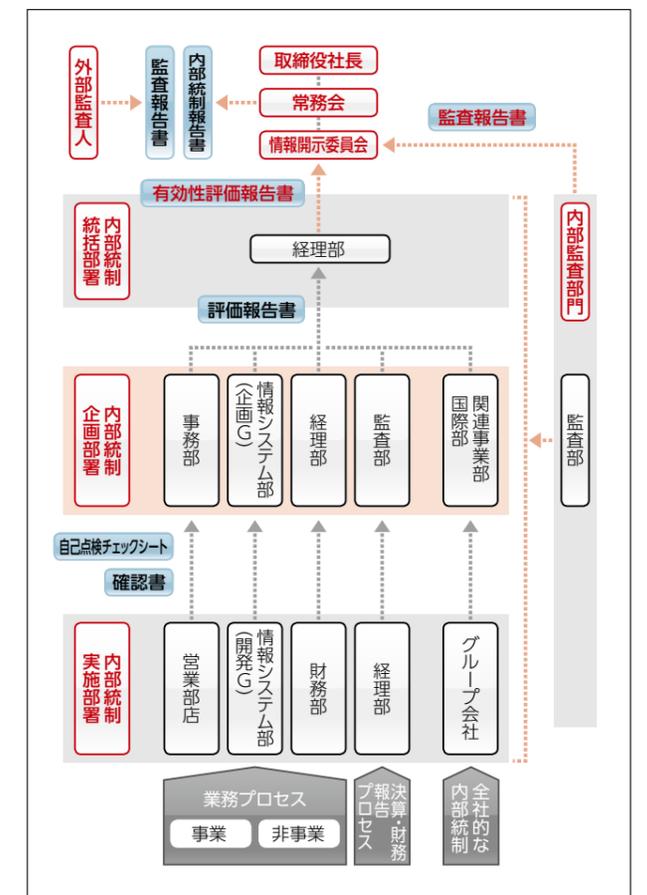
現在、国際会計基準審議会 (IASB) によってIFRSの改訂が進められており、この中にリース会計も含まれています。三菱UFJリースは、リース事業協会の主要メンバーとして、経団連主催のパネルディスカッションやIASBとの直接協議に参加しているほか、当社自ら、(財)会計教育研修機構が主催するリースをテーマとしたセミナーの講師を務めるなど、IFRSリース会計改訂に関する対外的な意見表明や情報発信を続けています。

内部統制システムの対応

三菱UFJリースでは、内部統制システムの整備と適切な運用に努めています。財務報告(有価証券報告書の作成・提出)に関わる業務の適正かつ効率的な実行に加え、毎期、その評価対象の拡充・見直しを行い、国内外のグループ会社や新規業務にまで対象範囲を広げています。内部統制統括部署である経理部は、対象となった各店舗・グループ会社に対して内部統制の実施状況を報告させ、監査部がその報告内容について監査を行った上で、四半期ごとに内部統制実施計画や有効性評価結果を情報開示委員会へ報告し、監査法人に提出します。社員に対しても、「内部統制ハンドブック」の配布などさまざまな取り組みを行い、内部統制システムに基づいて行動するよう徹底しています。



◆内部統制図



三菱UFJリースのCSR

グループマネジメントの推進

三菱UFJリースグループでは、グループマネジメントの強化に努め、事業におけるグループ全体の最適化を追求しています。また、内部統制やコンプライアンスにおける意識の共有化も図っています。

グループ社員は「三菱UFJリースグループ倫理綱領・行動規範」に基づき、基本的な価値観や倫理観を共有しています。「倫理綱領・行動規範」などの方針は「コンプライアンス・マニュアル」として一冊にまとめられ、グループ全社員に配布しています。

グループ会社を横断した取り組みも盛んで、会計基準、情報セキュリティ、内部監査といったテーマごとに勉強会や情報連絡会を開催し、それぞれの持つノウハウ・情報の共有化や、課題に対する忌憚ない意見交換などを通じて、グループ全体としてのマネジメント向上に努めています。



コンプライアンス・マニュアル

◆ 倫理綱領

三菱UFJリースグループの倫理綱領は、グループとして共有すべき基本的な価値観や倫理観を定め、グループの役員・社員等の基本的な指針とするものです。

1. 信頼の確立

グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。

2. お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する商品やサービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

3. 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルに展開する企業グループとして国際的に通用する基準も尊重します。

4. 人権および環境の尊重

お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。

5. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。



グループ会社 法務担当者向け情報連絡会

反社会的勢力に対する基本方針

反社会的勢力との関係の遮断・排除を徹底するため、三菱UFJリースグループでは「反社会的勢力に対する基本方針」を定め、ホームページでも公開しています。また、リース契約書などの契約関係書類にもいわゆる暴力団排除条項を盛り込んでいます。役員・社員は、反社会的勢力との関係遮断・排除の方針を遵守し、業務の適切性と安全性の確保に努めています。

◆ 反社会的勢力に対する基本方針

三菱UFJリースグループは、次のとおり反社会的勢力に対する基本方針を定め、役員一同これを遵守することにより、業務の適切性と安全性の確保に努めます。

1. 組織としての対応

反社会的勢力に対しては、倫理綱領・社内規定等に明文の根拠を設け、経営トップ以下、組織全体として対応します。また、反社会的勢力に対応する従業員の安全を確保します。

2. 外部専門機関との連携

平素から、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部の専門機関と緊密な連携関係を構築することに努めます。

3. 取引を含めた一切の関係遮断

反社会的勢力に対しては、取引関係を含めて、一切の関係を遮断します。

4. 有事における民事と刑事の法的対応

反社会的勢力による不当要求を拒絶し、必要に応じて民事および刑事の両面から法的対応を行います。

5. 裏取引や資金提供の禁止

反社会的勢力との裏取引は絶対に行いません。反社会的勢力への資金提供は絶対に行いません。

危機管理体制

自然災害や人為災害、事故・障害などは、場合によって企業経営に多大なダメージを与える可能性があります。三菱UFJリースでは、そうした事態が発生した際にも経営に与える影響を最小限にとどめるよう、「危機管理規程」「災害対策規程」及び対応マニュアルなどを整備し、あらかじめ対応方針を明確にしています。危機や災害が起きた時には、状況に応じて対策本部を設置し、部署ごとの役割分担に則って即応できる態勢としています。また、東日本大震災の経験も踏まえ、実践的なBCP(事業継続計画)の整備と訓練により、危機管理体制の実効性を高めています。

◆ 危機管理方針

三菱UFJリースグループは、危機発生時においても社会からの信頼を守ることを最優先し、以下の行動方針を基に、意思決定、行動判断を行うこととする。

企業として求められる責任を果たす

三菱UFJリースグループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、関係者の利害に関わる情報を積極的に開示するなど、企業として求められる責任を果たす。

コンプライアンスを徹底する

法令を厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業姿勢を示す。

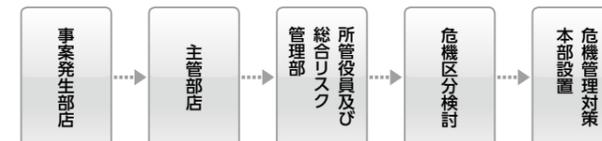
お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努める

危機発生時においても、お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努め、相互の信頼関係を維持する。

◆ 危機区分と対応態勢

危機区分	危機の状況	対応態勢
警戒事態	対応の遅れや誤りにより「危機事態」に発展する可能性のある状況	主管部店対応
危機事態	業務の著しい遅延や中断、及び、企業の存続が危ぶまれる信用失墜の危険性が高まった状況	危機管理対策本部 (本部長：主管部店所管役員)
非常事態	「危機事態」の中でも経営・業務への影響が特に大きく、社長の意思決定が必要な状況	危機管理対策本部 (本部長：原則、社長)

◆ 危機対応のフロー



「DBJ BCM格付」を取得

三菱UFJリースは、日本政策投資銀行(DBJ)の「DBJ BCM格付」を金融業界で初めて取得しました。「DBJ BCM格付」は、防災と事業継続に向けた取り組みに優れた会社を選定するものです。今回、防災計画の内容や災害発生時を想定した事業継続体制の整備など、お客さまに安全で安定したサービスをご提供するための当社のさまざまな取り組みに対し、最高ランクの格付が付与されました。



当社は、平成25年4月日本政策投資銀行(DBJ)よりDBJ BCM格付融資を受け、格付結果は「事業継続に対する取り組みが特に優れている」と評価されました。

情報セキュリティへの対応

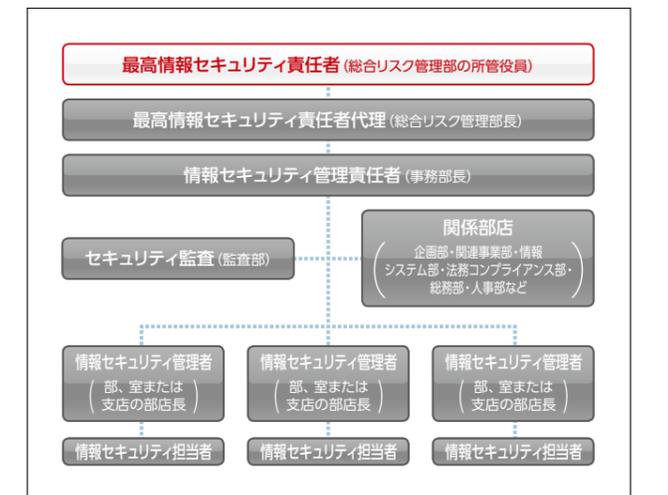
三菱UFJリースでは、情報セキュリティ管理体制、及び個人情報保護の強化に努めています。

「情報セキュリティ管理規程」及びマニュアルでは、情報セキュリティに関する基本方針(セキュリティポリシー)、情報資産の重要度の区分、利用・管理・廃棄のルール、安全対策基準、全社組織としての管理体制などを定めているほか、電子メールの誤送信防止システム、印刷物・記録媒体管理ツール、お客さま向けWebサイトのセキュリティ保護強化などを推進しています。

個人情報保護については、「個人情報保護方針」を定め、ホームページに掲載するとともに、情報の入手・管理方法について規定した「個人情報保護規則」を制定し、法令に基づいた適切な取り扱いを徹底しています。また、社員教育用の「個人情報保護マニュアル」も整備しています。

さらには、年4回、派遣社員を含む全社員を対象に、e-ラーニングを使った理解度チェックや情報セキュリティ監査を実施しています。

◆ 情報セキュリティ管理の組織



特集 2 三菱UFJリースグループの多彩なビジネス



EV外部給電機能の実演



EVの試乗会の様子

三菱オートリース

三菱オートリースは、アズビル(株)と共同でEV(電気自動車)の普及促進や環境貢献活動を目的として、ユーザーコミュニティ「EVコミュニティ・えこりは」を運営しています。このコミュニティに参加する企業・自治体がEVを使用することで生み出されたCO₂排出削減量は、クレジット(排出権)として国内初となる政府認証を受けています。また、2013年2月には関東エリアと中部エリアで、「Safety & Eco, Welfare Forum」を開催し、緊急時におけるEVの外部給電機能などの紹介や、最新の福祉車両などの展示や試乗会を行いました。



ユーマシン 倉庫内の様子

ユーマシン

ユーマシンは、中古機械の買取から販売までトータルに行う中古機械の専門商社です。工作機械、鍛圧機械、成形機、計測器などの機械を幅広く取り扱い、愛知県と埼玉県にある自社倉庫には、数多くの在庫を保有・展示しており、機種・量ともに中古機械業界でトップクラスの規模です。今後もさらなる取り扱い機種の拡大とサービスの深化を目指し、中古機械の売買を行うことで廃棄物削減を推進していきます。2012年5月にはタイのバンコクに現地法人「ユーマシン(タイ)」を設立しました。詳細は9ページをご覧ください。



EM・キャストの倉庫に保管されている医療機器

EM・キャスト

中古医療機器の買取や販売を手掛けるEM・キャストは、超音波診断装置や内視鏡など比較的小型のものから、MRIやCTなどの大型の機器まで多岐にわたる医療機器を取り扱っています。国内の病医院から買い取った医療機器は、徹底した品質管理を行っています。安心・安全で良質な中古医療機器を幅広くご提供することで、人々の健康や、安定した病医院経営に貢献しています。

MULエコビジネス

MULエコビジネスは、三菱UFJリースグループのリース・レンタル終了後の情報機器(PC、モニター、プリンター、コピー機など)を回収して、徹底したリユース・リサイクルを実施しています。2012年度は約32万台の対象機器のうち84%をリユースし、そのほかの物件についても手解体による部品のリユースと素材としてのリサイクルで、ほぼゼロエミッションを実現しています。

VOICE MULエコビジネス 担当者の声



MULエコビジネス 東京事業所 所長代理 小倉 謙治

情報機器を取り扱うだけに、データなどの情報セキュリティには万全を期しています。2012年12月には東京事業所を移転し、データ消去作業エリアを専用区画とするなど、セキュリティ体制をより一層強化しました。今後もMULエコビジネスでは安全と安心という品質を高めつつ、さらなる環境負荷の低減を実現していきたいと思っています。

MULエコビジネス 東京事業所内の様子



三菱UFJリースグループは、リース・レンタルをはじめとした多様なサービスを展開し、グループ各社が持つ専門性やネットワークを活かしながら、豊かな社会の実現を推進しています。

ディー・エフ・エル・リース

ディー・エフ・エル・リースは、大阪府が実施する「リース方式による道路照明灯まるごとLED化」(2012年度発注分)事業において、リース受託業者となりました。茨木・枚方・八尾・岸和田の道路照明灯約15,000灯をまるごとLED化し、大阪府内の省エネ・節電、コスト削減に貢献しています。

【大阪府の道路照明LED化】



首都圏リース

首都圏リースでは、埼玉県発注のPFI事業への参加やESCO事業を行うなど首都圏を中心に事業を展開しており、お客さまのさまざまなニーズにきめ細かくお応えしています。また、不動産ビジネスも強化しており、不動産に関する知識の向上を目的とした社内セミナーを開催するなど、専門性の高い知識の習得・向上に努め、質の高いサービスのご提供を心掛けています。



ダイヤモンドレンタルシステム

お客さまが所有するIT資産のトータルマネジメントを行うダイヤモンドレンタルシステムでは、PCの導入時における機器の選定・仕入れから、使用期間中の資産管理や保守業務、使用期間終了後のデータ消去作業など、PCライフサイクルに対する一連のサービスをご提供しています。お客さまのIT資産に対する情報セキュリティの強化やコンプライアンス対策、資産管理などをトータルでサポートしています。

神鋼リース

神鋼リースは、神戸製鋼所グループの広範なネットワークを基盤に、建設機械・産業機械などを対象として、設備投資や機器導入をサポートしています。環境に配慮した建設機械のファイナンスや、環境省指定のエコリース対象機器の導入など、環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。



大型クレーン



お客さまの多様化するニーズに 幅広いソリューションをご提供します。

基本的な考え方

三菱UFJリースは、お客さまのニーズや課題に的確にお応えするために、さまざまな商品・サービスをご提供しています。事業環境の変化に対応し、より利便性の高いサービスをお客さまにご提供するために、既存サービスの充実や商品ラインナップの拡充に努めています。

お客さま接点の強化

三菱UFJリースは、お客さまと直接対話する機会を大切にし、数多くの商談会・展示会に参加しています。その中から代表的な出展先をご紹介します。

》Business Link 商賣繁盛

2013年2月に幕張メッセで開催された三菱UFJフィナンシャル・グループ主催のビジネスマッチング商談会「Business Link 商賣繁盛」に主催者の1社として出展しました。10回目となる今回は、「日本の英知が、世界で生きる。」をスローガンに、「グローバル」と「ものづくり」の2つのテーマエリアが設けられ、過去最多の約2,700社が参加しました。

当社は2つのブースを設け、太陽光発電に関わる環境事業と、企業の海外進出サポート事業などをご紹介します、多くのお客さまと面談を行いました。



Business Link 商賣繁盛



営業統括部
課長代理
木村 俊彦

VOIC E Business Link 商賣繁盛 担当の声

今回の「Business Link 商賣繁盛」では、主に「太陽光発電」や「海外進出」に関する当社のサービスについてご紹介しました。お客さまとの交流を通じて改めて感じたことは、「環境」「海外」分野へのお客さまの関心は日増しに高まっており、抱える課題も多様化・複雑化しているということです。

それと同時に、お客さまの課題解決に向き合うビジネスパートナーとしての当社に対する期待の高さを確認することができました。

今後もお客さまのさまざまなご要望にお応えできるよう、サービスのさらなる充実と努めるとともに、直接お客さまからの声を聞くことのできるこのような機会を大切にしていきたいと思っております。

》セミコン・ジャパン

半導体業界における国内最大のイベント「セミコン・ジャパン2012」は、19の国と地域より約850社が出展し、最新の半導体製造装置・材料などを展示、3日間で67,000名を超える人が訪れました。

当社のブースにはメーカーを中心とした多くのお客さまが訪れ、中古半導体製造装置の販売・ファイナンスや、製造設備に関わる環境関連サービスなどについて、多くの面談が行われました。



セミコン・ジャパン

シンフォニー (建物リース)

建物リース「シンフォニー」は、三菱UFJリースが土地所有者から借り受けた土地にお客さまの希望する建物を見て、まるごとリースするサービスです。建物の建築関連費用(土地の造成、建物の設計・建築費、土地の賃料・預託金など)はリース料として月々分割のお支払いとなるため、初期投資を大幅に抑えることができます。また、土地所有者や行政との交渉から、建物の設計・施工や維持管理を行う会社の選定・アドバイスまで、お客さまのニーズにトータルでお応えします。

当社は20年以上前から本サービスを積極的に推進しています。これまでに多店舗展開を行う商業店舗、ショールーム、複合商業施設、物流・配送センターなどを手がけ、業界屈指の実績を誇っています。

◆三菱UFJリースのシンフォニー

メリット

- 初期投資の軽減
- 複数の地主さまとの交渉が容易
- キャッシュフロー負担の軽減
- 建物の所有に伴う管理事務が簡素化
- コスト把握が容易

導入事例：根室西浜町ショッピングセンター

2012年11月(一部12月)、北海道根室市にオープン
複合商業施設 駐車スペース408台 リース期間20年



根室西浜町ショッピングセンター(鳥瞰図)

e-Leasing Direct Platinum サービス開始

三菱UFJリースではリースの見積りから契約、満了手続きに至る一連のプロセスをインターネット上で実現し、お客さまの資産管理業務への負担を軽減する独自の資産管理サービス「e-Leasing Direct」をご用意していますが、新たなラインナップとして2012年10月に資産管理クラウドサービス「e-Leasing Direct Platinum」をリリースしました。「e-Leasing Direct Platinum」は、リースにより導入した設備や機器に限らず、お客さまが保有するすべての資産の導入から処分までのライフサイクルにおけるさまざまな情報(アセットライフログ[®])を統合して管理できるため、資産情報の一元管理や、全社ベースでの経営資源の有効活用や最適化などに活用いただけます。

※アセットライフログとは、購入・修理・メンテナンス・移設・処分など、資産の生涯において発生した各種事象及び所要費用の履歴情報を指します。

◆e-Leasing Direct Platinumの資産管理



資産のライフサイクルにおける各部門のさまざまな情報を一元管理することで、経営資源の最適化をサポート。



e-ビジネス推進部
課長代理
八木 慎

VOICE e-Leasing Direct Platinum 担当の声

e-Leasing Direct Platinumを開発したきっかけは、e-Leasing Directの営業を通じて資産管理ニーズの高まりを感じたことでした。お客さまが保有する資産の総コストを適切に管理し、経営資源の有効活用を簡単に行えるサービスを目指し、1年半をかけて開発しました。資産管理における最高峰のサービスをご提供したいという思いから「Platinum」というネーミングにしました。

「Platinum」は従来にはない発想の資産管理サービスなので、お客さまに資産管理で得られるメリットと使いやすさをご理解いただけるように心がけ、パンフレットやユーザーガイド、利用申込書、利用約款に至るまで、わかりやすさと使いやすさにとことんこだわりました。

シリーズ広告を展開

三菱UFJリースでは事業を紹介するシリーズ広告を新聞紙面に展開しています。2012年6月より開始した広告では、「きっとあなたと、どこかでリンク。」というキーワードを用いながら、当社の事業やサービスが身近なところで地域社会や生活と密接に関わっていることを紹介しました。

例えば、自動改札機・自動販売機などの導入・管理支援や、電力・車両などから排出される温室効果ガスの抑制対策、ショッピングセンター・図書館・病院の快適な運営など、さまざまな事業やサービスを通じて、豊かな社会の実現に貢献していることをお伝えしています。



新聞広告

積極的な対話と 適正な情報開示に努めます。

基本的な考え方

三菱UFJリースは、株主・投資家のみなさまからの期待と信頼にお応えし、経営や事業活動に関するご理解を深めていただけるよう、活発なコミュニケーションを行うとともに、公正でタイムリーな情報開示と企業価値の向上による株主還元に努めていきます。

IR活動の目的と基本方針

三菱UFJリースは、企業活動や事業戦略について積極かつ継続的に開示することで、株主・投資家のみなさまから適正な評価を得ることをIR活動の基本方針としています。また正確、迅速、公平な情報開示のための体制整備を行い、イベントへの参加などを通じた双方向のコミュニケーションを積極的に図っています。



IRポリシー
<http://www.lf.mufg.jp/investors/policy/>

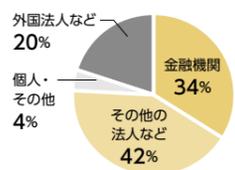
◆IRポリシー（概要）

- 1. IR活動の目的と基本姿勢
- 2. 情報開示の基準
- 3. 情報開示の方法
- 4. 将来見通しについて
- 5. 未公開の重要情報について
- 6. 沈黙期間

株主還元と企業価値の向上

三菱UFJリースは、株主還元の充実と持続的な企業価値の向上に努めることで、継続かつ安定的な配当を実施しています。2013年3月期の一株当たりの配当金は、14期連続の増配となる65円（前期比5円増）とさせていただきます。

◆所有者別株式数比率



◆一株当たりの配当金の推移



株主・投資家とのコミュニケーション重視

三菱UFJリースは、IRイベントへの参加、投資家説明会や個別ミーティングなどを通じて、株主・投資家のみなさまと積極的なコミュニケーションを図っています。また、ホームページや各種報告書などによって、迅速かつ公平なIR情報をお届けしています。こうしたさまざまなコミュニケーションを通して寄せられたみなさまのご意見は、今後の経営やIR活動に反映していきます。



IR情報
<http://www.lf.mufg.jp/investors/>

》個人投資家とのコミュニケーション

個人投資家のみなさまの投資判断にお役立ていただくために、証券取引所や証券会社が主催する個人投資家向けのイベントに積極的に参加し、経営方針や業績動向などの情報をわかりやすくお伝えしています。2012年度は、中部エリア最大のIRイベント「名証IRエキスポ」に出展したほか、京都と神戸で個人投資家向けセミナーを開催しました。



名証IRエキスポ



個人投資家向けIRセミナー

》機関投資家とのコミュニケーション

機関投資家・アナリストのみなさまに対して、年2回（5月、11月）、決算説明会を開催し、代表取締役から決算概要、経営戦略や各種施策などの説明を行っています。また、国内はもちろん、近年関心が高まっている海外の機関投資家向けにも、個別取材やミーティングを継続的に実施し、コミュニケーションの活性化を図っています。

一人ひとりの能力が発揮できる 職場づくりを目指します。

基本的な考え方

三菱UFJリースは、社員の個性と多様性を尊重した、働きやすい職場づくりのために、ワーク・ライフ・バランスや、ダイバーシティ、女性の活躍支援、キャリア形成支援などの充実に向け、さまざまな制度の拡充や、意識啓発活動に積極的に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランス

三菱UFJリースは、男女に関わらず、社員がワーク・ライフ・バランスを実現し、一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場づくりを推進しています。その一環として、全社的な早帰り月間を設けた「88運動」の実施や、介護休暇、ボランティア休暇など個々の事情に応じて働くことができるさまざまな制度を設けています。2012年度には、マネジメント層向けの「ワーク・ライフ・バランスセミナー」を開催し、産前特別休業及び育児休業の取得者、復職者、短時間勤務利用者への理解とその後の対応、活躍促進などについて意識づけを行いました。

出産・育児支援制度

仕事と出産・育児を両立し、働き続けることができるように、さまざまな制度を設け、サポートしています。産前特別休業・育児休業を合わせ、法定休業期間を上回る最長2年半の休業が可能です。2012年度の産前産後休業利用者は27名、育児休業利用者は42名でした。さらに、1日の勤務時間を最大2時間短縮可能な「短時間勤務制度」や、共働き世帯へ保育費の1/2を補助する「育児保育費用補助制度」なども設けています。また、支援制度を利用しやすい社内風土づくりと意識啓発にも取り組んでいます。

主な支援制度

産前特別休業	出産予定日の6ヶ月前から
育児休業	子どもが2才になるまで
出産記念休暇	妻が出産する男性社員に2日まで
短時間勤務	妊娠中の女性社員、小学校就学前の子どもがいる男女社員に1日2時間まで
育児保育費用補助制度	保育費の1/2を補助（月3万円まで）
看護休暇	年10日まで

産休・育休利用者数について

	産前産後休業	育児休業
2010年度	19名	41名
2011年度	16名	37名
2012年度	27名	42名

くるみマークの取得

三菱UFJリースは、東京労働局より次世代認定マーク（くるみマーク）を取得しています。このマークは、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、仕事と家庭の両立を支援する環境整備を進めてきた企業に交付されるものです。



くるみマーク

均等・両立推進企業表彰受賞

2012年度に、三菱UFJリースは、厚生労働省が主催する「均等・両立推進企業表彰」のファミリー・フレンドリー企業部門で東京労働局長奨励賞を受賞しました。これは、仕事と育児・介護が両立できるさまざまな制度を持ち、多様でかつ柔軟な働き方を推進している企業が表彰されるもので、今回の受賞は、法の基準を上回る制度を整備し、使いやすい制度にするための社内意識の醸成に積極的に取り組んでいることが評価されたものです。



均等・両立推進企業表彰受賞

社員とともに

ダイバーシティ推進室

「ダイバーシティ推進室」は、多様な個性や価値観を活かした組織づくりを目指して、女性の活躍推進、グローバル人材の育成、働き方の意識改革などに取り組んでいます。

女性の活躍推進

男女の別なく勉強・研究にいそしんできた女性社員が、結婚・出産・育児によって継続して働きにくくなっていった従来の状況を改善し、女性がさらに力を発揮できるようにしていくことが重要であると三菱UFJリースは認識しています。働く女性を取り巻く環境整備は、少子高齢化が進む中で社会的な課題となり、改正された「次世代育成支援対策推進法」では、仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備が範囲を拡大して企業に義務づけられました。

当社は、女性がいきいきと働き、その力を発揮できる職場環境を整備することと、働く女性の意識を高めることを両軸に、女性キャリア開発プログラム、女性リーダー養成塾、ワーク・ライフ・バランスセミナーなどの研修制度に加え、未就学児に対して保育園・ベビーシッターの保育費を補助する「育児保育費用補助制度」などの支援制度を充実し、女性社員の長期的なキャリア形成を支援しています。

グローバル人材の育成

ビジネスのグローバル化に伴い、卓越した語学力に加え、世界の多様な価値観を理解し、ビジネスに活かせるグローバル人材の育成が急務となっています。三菱UFJリースではそうした課題に対応して、語学研修、語学トレーニー制度、海外トレーニー制度などさまざまな研修を実施しています。

また、海外において日本語・日本文化を専攻する現地の学生を対象にした奨学金制度を設けています。

詳細は23ページをご覧ください。

働き方の意識改革

多様な働き方を支援する制度が整備される一方、男女問わずその制度を活かし、真に社員が働きやすい環境が実現できるかは、職場風土や働く人の意識に大きく影響されます。

三菱UFJリースでは、マネジメント層向けのワーク・ライフ・バランスセミナーの開催や、さまざまな情報提供を通して、支援制度を有効に活用できる働き方の意識改革に取り組んでいます。

ヘルスケアサポート体制

社員が心身両面で健康に働ける職場づくりを目指して、専門医療機関と連携したヘルスケアサポートをしています。各店舗にヘルスケア担当者を配置しているほか、24時間健康相談、無料カウンセリング、医療機関紹介、ストレスチェック、メンタルヘルスチェックなどを実施しています。

教育研修制度

新入社員研修

新入社員は入社後の1年間、新人研修を通じビジネスマナーや業務の基礎知識を身につけます。また、入社から3年以内に、習得する知識の具体的尺度として社内認定制度を設け、各種通信教育講座・公的資格試験を指定し、当該カリキュラムの修了によって目標達成を認定しています。



新入社員研修

メンター制度

新入社員を2年間、先輩社員のメンター（指導者）がさまざまな面からサポートし、信頼関係を築きます。仕事はもちろん、新入社員が抱く不安や悩みに親身に相談にのりながら、成長を支えます。

グローバル人材育成制度

海外トレーニー、語学スクール（英語・中国語）、海外の大学（中国）への派遣などに加え、ビジネス英語基礎力確立プログラムを実施し、語学や国際金融知識に精通したグローバル人材を育成します。

若手層～次期マネジメント層向け研修

MULビジネススクールなどの社内公募制研修により、キャリアアップを支援しています。若手から次期マネジメント層まで、キャリアに合わせたカリキュラムを整えています。

コース転換制度

社員自らのライフプランやキャリアプランに合わせてコース転換ができる制度です。毎年1回募集し、選考をクリアした人にコース転換が認められています。

社内公募制度

対象部門への異動を自らの意思で応募できる制度です。社員に主体的なキャリア形成のチャンスを提供しています。

女性活躍推進に係る取り組み

「女性活躍推進に係る取組方針」や、その取り組み状況（社員数や課長相当職における男女構成比など）を社内外に公表することで、取り組みの促進と意欲ある人材の確保につなげています。



働きやすい職場づくり
<http://www.lf.mufj.jp/corporate/csr/actionplan.html>

女性基幹職のキャリア開発プログラム

2012年度は、中堅層に差し掛かる総合職・準総合職の女性社員を対象とした「女性基幹職のキャリア開発プログラム」を開催しました。

本プログラムは、改めて長期的なキャリアイメージを描き、多面的に自分自身の仕事や女性特有のライフイベントについて考えることをサポートするカリキュラムです。



女性基幹職のキャリア開発プログラム

行動指針表彰制度「クレドマスター」

三菱UFJリースでは、行動指針を体現した模範的な取り組みを「クレドマスター」として表彰しています。2012年度には、7件の取り組みが「クレドマスター」として表彰されました。

「最優秀クレドマスター」として、毎月の営業実績の集計をシステム化した「営業事務負荷軽減に向けた取り組み」が受賞しました。



クレドマスター表彰式

VOICE 最優秀クレドマスター受賞者の声



営業統括部 江口 史恵
営業統括部 頃末 美幸
営業統括部 河村 智子

毎月の営業実績の集計には、各営業部でも営業統括部でも、大きな負荷がかかっていました。そこでシステム化による事務負荷の軽減やヒューマンエラーの防止を図りました。自動化できる作業を洗い出し、営業部店の要望を取り入れながら改善策を企画し始めました。事務負荷の軽減、確認作業の効率化とともに、営業部店と協業先である専門営業部・関連会社との間で連携が取れるようにも配慮しました。

システムのリリース後、営業部店の方々から「システム化のおかげで事務作業が効率的になった」などの感想をいただきました。また、この取り組みが最優秀クレドマスターの受賞という形で評価され、嬉しいかぎりです。今後は、リリースしたシステムの運用面の向上など営業部店のバックアップを進めていきます。

人や社会を支え 地域に貢献していきます。

基本的な考え方

三菱UFJリースは、地域に根ざす企業としての社会的責任を果たすため、子どもや若者のサポート、東日本大震災などの被災者支援、自然環境の保護、ボランティア活動など、地域社会と共生しながら、さまざまな貢献活動を続けています。

教育を通じた次世代育成支援

三菱UFJリースは、未来を担う子どもたちや若者の育成を目指して、教育を通じた社会貢献を実施しています。特に、グローバル化に対応した人材育成を推進しています。

海外での奨学金制度

三菱UFJリースは、海外で日本語や日本の文化を学ぶ学生に対する奨学金制度を設けています。この制度を通じて、グローバル人材の育成支援や、日本に関わる仕事を志している学生を積極的にサポートしています。2012年3月の中国(復旦大学、上海外国語大学)を皮切りに、2012年9月にはタイ(チュラーロンコーン大学、タマサート大学)、2013年にはインドネシア(インドネシア大学、ダルマプルサダ大学)でも本制度の導入が開始されるなど多くの国の学生の教育機会提供に役立てられています。



Mitsubishi UFJ Lease Scholarship授与式

VOICE 大学関係者さまの声



タイチュラーロンコーン大学
文学部東洋言語学科
日本語講座 助教授
チョムナード
シティサン様
(学科を代表して)

当大学は2012年より三菱UFJリースから奨学金を提供いただいています。企業からの奨学金制度によって学生たちの仕事に対する意識も変わり、これまで以上に勉学に励むことと思います。

日系企業は組織がしっかりしていて、福利厚生面も充実していますので、日系企業に就職した卒業生はたくさんいます。学生たちは、仕事の結果が適正に評価され、自分のスキルを磨くことができるという点に、日系企業で働くメリットを感じています。学生が大学での生活を通じて日本への理解を深めつつ、より広い視野を身に付けられるよう、奨学金を役立てていきたいと思っています。

ジョブシャドウ

公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本、東京都教育庁との共催で、2012年7月に都立高校生を対象とした職場体験プロ

ラム「ジョブシャドウ」を実施しました。三菱UFJフィナンシャル・グループ全体で102名の高校生を受け入れ、当社には9名が訪れました。



ジョブシャドウの様子

このプログラムは、仕事をしている人を見ることに主眼を置いたもので、高校生にはペアとなった社員の影のように半日間行動をともにし、働く姿勢や職場の臨場感を体験してもらいました。参加した高校生からは「仕事には想像以上の責任感が必要だとわかった」などの感想が寄せられました。

TOMODACHI Initiative

東日本大震災の際、自衛隊と米軍が共同で実施した被災地救援活動「トモダチ作戦」の流れを受け、米国政府とNPO法人・米日カウンシルが主体となり、復興支援プロジェクト「TOMODACHI Initiative」が設立されました。同プロジェクトにおいて、当社を含めた三菱UFJフィナンシャル・グループは、東日本大震災で被災した日本の学生と米国カリフォルニア州の学生との交流プログラムを立ち上げ、3年間にわたる国際文化交流をサポートしています。2012年7月には13日間にわたり被災地の中高生20名が米国に渡航し、ホームステイをしながら米国の企業や現地コミュニティを訪れるなどして、米国の文化や価値観を学ぶとともに、さまざまな交流を深めました。



壮行会記念撮影

森林・林業再生プロジェクト

CO₂の吸収、水源の涵養、災害防止など、すべての生き物が生きていくうえで重要な役割を果たす森林を守るため、三菱UFJリースが出資し設立した(株)中部フォレストマネジメントを通じ、岐阜県営森林(岐阜県



森林調査の様子

高山市久々野・朝日地区)と準公有林(岐阜県中津川市・田瀬財産区)を対象にしたPPP(Public Private Partnership)方式による森林管理プロジェクトを実施しています。

当社はこの森林管理プロジェクトの運営により、大切な森林を守るとともに、事業を通じて培った民間企業の視点やノウハウを活用し、持続可能で自立した循環型森林経営の構築を目指してまいります。また、森林資源の活用による地域社会の産業振興・雇用創出や環境保全にも寄与してまいります。

三菱アジア子ども絵日記フェスタ

三菱UFJリースが加盟する三菱広報委員会は、社団法人日本ユネスコ協会連盟などと共同で「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を開催しています。アジアの子どもたちが描いた絵日記を通じて、子どもたちがお互いの文化を理解し合い、より良い未来を築いていくことを目指しています。

2012年はアジアの24の国と地域から70,653点の作品が寄せられ、優れた作品は今後日本各地の展示会で紹介される予定です。



絵日記募集ポスター

第44回全日本大学駅伝

2012年11月に開催された大学3大駅伝の一つ「秩父宮賜杯 第44回全日本大学駅伝対校選手権大会」に協賛しました。三菱UFJリースは、駅伝運営において発生するCO₂排出量をオフセットパートナーサービスによりオフセットしました。今回使用した排出権は、東日本大震災で被災した宮城県が発行したもので、当社が購入・活用することで、被災地域の森林管理や雇用促進に役立てられています。



全日本大学駅伝ポスター

東京ミチテラス2012

2012年12月、東京駅・丸の内エリアにて、光の祝典「東京ミチテラス2012」が開催されました。これは、昨年まで開催されていた「光都東京LIGHTOPIA」に代わるもので、三菱UFJリースは引き続き協賛しています。会場では小学生が未来へのメッセージを描いた「光のメッセージタワー」をはじめ、さまざまなイルミネーションオブジェが登場し、幻想的な光で人々の目を楽しませていました。



光のデッセレーション



光のメッセージタワー

PPP・PFIの推進

PFI(Private Finance Initiative)は、公共施設の建設から維持運営まで、民間の資金・ノウハウを活用して、質の高い公共サービスを効率的に実現する手法です。2011年に改正されたPFI法では、対象となる事業の拡大などが盛り込まれ、老朽化が進む社会インフラの更新にPFIの手法が注目されています。

三菱UFJリースは、日本にPFIが導入された草創期からPFIに注力し、これまでに50件の受注実績を誇り、そのうち15件は代表企業として事業全体の統括を行っています(2013年3月末現在)。需要の拡大が見込まれるPFIや、より広い官民連携を目指すPPP(Public Private Partnership)への取り組みを推進するための専門部署「PPP・PFI推進室」を設置するなど営業体制を強化しながら、社会インフラの再整備に積極的に関与しております。



横浜市戸塚区総合庁舎



庁舎内の情報コーナー

VOICE 戸塚区役所ご担当者さまの声



横浜市戸塚区総務部総務課
予算調整係
高橋 ちあき様

横浜市戸塚区総務部総務課
予算調整係長
金森 裕一様

横浜市戸塚区総務部総務課
予算調整係
中込 信人様

横浜市では、戸塚区の新庁舎建設にあたり、瀬谷区に続き2例目となるPFIを活用しました。民間の活力を利用する手法ということで、民間企業ならではのデザインコンセプトや空間づくりを期待していたのですが、提案の内容はとても洗練されており、区民のみならず職員も完成を待ち望んでいました。新庁舎には区民が交流できる区民広間や子育て応援ルームなどもあり、地域の憩いの場となっています。施設の利用者からは、「受付窓口や廊下が広くって使いやすくなった」「戸塚駅直結で便利」「レストランや屋上庭園もあり、親しみやすくなった」などの声をいただいています。今後もこの施設を中心に区民のコミュニティ形成がさらに発展していけたらと思っています。

導入事例：横浜市戸塚区総合庁舎

2013年3月オープン。区役所のほか、区民文化センターや多目的ホール、レストランを併設。事業規模約169億円、事業期間約17年間。三菱UFJリースは本PFI事業の代表企業を務める。

マンション向け設備リース

高経年のマンションを中心に、修繕積立金不足で大規模修繕工事が実施できないというケースが多くなっています。三菱UFJリースが提供するマンション管理組合向けサービスは、リースやファイナンスを活用した、設備の新設・更新、大規模修繕工事、環境を意識した蓄電池や太陽光パネルの最新省エネ設備の導入などが可能で、修繕費の積立を待つことなく、快適・安全な生活を先取りすることができます。

これまでに全国1万棟を超えるマンションで当社のサービスが利用されています。



修繕後のドア



マンション外観



VOICE 管理組合理事長さまの声

管理組合理事長
(サービス導入当時)
山下 節子様

2011年に行った大規模な修繕工事では、外壁とともにドアも塗装し直す予定でした。しかし、化粧直しが3回目となり塗装が難しい状況がみられたため、急遽新しい玄関ドアに入れ替えることを検討したのですが、想定外の出費に困っていました。そんな時、現金を保持しながら毎月の負担額が少ないリースが利用できることを知り、早速リースでドアを入れ替えました。おかげで快適な生活を手に入れることができました。分割払いのリースを採用すれば、古い設備で我慢しなくても、積立金を有効活用して心地の良い生活を先取りできるので、今後も利用したいと思います。

被災地復興支援活動

》IPPO IPPO NIPPON プロジェクト

東日本大震災で被災した東北の人々に対して、真の復興に向けて「一歩一歩」進んでいってほしい、という思いを込め、経済同友会が中心となって実施している復興支援プロジェクトです。三菱UFJリースは発足時より参加し、同プロジェクトの取り組みをサポートしています。



追悼シンポジウム



現地視察会

2012年10月には支援先の職業高校などを訪問し、同プロジェクトを通じて寄贈された機材を使って実習を行っている様子を視察しました。また、当社は2013年3月11日には仙台で開催された追悼シンポジウムに出席し、参加企業を代表して悼辞を述べました。



公益社団法人 経済同友会
企画部 マネジャー
藤井 大樹様

VOICE プロジェクト事務局ご担当者さまの声

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の職業高校や大学に対して息の長い支援を行ってきたいとの思いから、全国44経済同友会が一丸となり「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」を立ち上げました。

具体的な活動として、職業高校には実習で使用する機材や仮設校舎への交通手段のバスなどを、また、大学には災害科学研究者や地域復興支援センターへの活動資金などを提供しました。そうした活動の甲斐あって、機材の寄贈によって実習を行えるようになった職業高校では、生徒の活気が生まれ、一歩一歩ですが本来の職業高校の姿に戻ってきているように感じます。

現物支援のほかにも、企業経営者が現地の高校を訪問して授業を行うなど、今後も人と人とのつながりを大切に草の根レベルでの支援活動を行っていききたいと思います。

》米国ハリケーン「サンディ」

三菱UFJリースは、三菱UFJフィナンシャル・グループ各社と連携し、米国で起きたハリケーン「サンディ」の被災地における救援や復旧に役立てていただくために、日本赤十字社を通じて義援金を寄贈しました。これに対して、日本赤十字社より金色有功章を受章しました。



日本赤十字社より受章

ボランティア活動

三菱UFJリースでは、地域社会の一員として、さまざまなボランティア活動に取り組んでいます。

大宮支店では「さいたま緑のトラスト運動」における植樹活動、札幌支店では「北1条通オフィス町内会セーフティ&グリーン大作戦」における清掃活動、北陸支店では「富山三菱会」における清掃活動、広島支店では広島市の「企業の森親制度」における森林保全活動、九州支店では「ラブアース・クリーンアップ2012」における清掃活動を行いました。

また、その他の多くの部店でも、エコキャップ運動(ペットボトルのキャップを再資源化し、CO₂の発生抑制と、途上国の子どもたちにワクチンの寄贈を行う運動)を実施しています。



大宮支店による「さいたま緑のトラスト運動」

環境のために

環境に配慮した経営を実践しています。

環境に対する考え方

三菱UFJリースは、環境マネジメントシステムの構築や、環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に向けたさまざまな活動を実践しております。また、当社では本業を通じた環境への取り組みも推進しており、環境関連事業を重点分野の一つに位置付け、モノを扱う事業特徴を活かした環境活動にも努めています。

◆環境方針

1. リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、すべての事業活動において環境保全を推進する。
2. 環境目的・目標の設定・見直し及びマネジメントレビュー等を通じてシステムの継続的改善を図る。
3. 以下の通り汚染の予防に努める。
 - (1) 省資源、省エネルギー、廃棄物の低減等に取り組み、効率の向上、コストの削減を図る。
 - (2) リース終了物件処理等においては、廃棄物の減量化と資源リサイクル及びリユースを推進する。
4. 関係する法規制及びその他の要求事項を遵守する。

環境方針

<http://www.lf.mufg.jp/corporate/csr/management.html>

◆環境目的・目標(一部抜粋)

環境目的	部門	中長期目標
省資源・省エネルギー	オフィスワーク	(1) 低公害車導入、エコドライブの推進。 (2) グリーン調達(紙・文房具)の集計管理。 (3) コピー・紙・電気の節約。 (4) エネルギー使用量削減の推進。
	営業	改正省エネ法に基づきエネルギー使用量削減を推進。
違法	リース終了物件処理	(1) 日常的な運用管理の徹底と、運用実績などに応じた改善・見直し。 (2) 水資源の有効利用。
		(1) 廃掃法に則った適正な運用。 (2) 業者評価チェックリスト及び手順書の厳格な運用と、優良な処理業者との友好関係構築のチェック&バランス体制確立。 (3) 家電リサイクル法、フロン回収破壊法などの各種法令に則った適正運用。 (4) 記録管理・処理内容把握によるリユース推進。 (5) 処理困難物件の適正な管理運用、汚染防止。
廃棄物の低減(リユース)の推進	営業	(1) 効果的な売却方法の検討・推進を図り、廃棄量を削減。 (2) 効果的な手解体によるリサイクル・リユース体制の推進。
		(1) 環境ビジネスを通じて環境負荷低減に貢献。 (2) 再販価値の高い物件、再リース実行確度の高い物件を選定する力の育成と手法の確立により、2次収益の確保、廃棄物の排出量削減を推進。

◆環境活動フロー



◆環境データ

No.	集計項目	単位	基準値	2012年度実績	2013年度目標
1	総エネルギー投入量 ^{※1}	1㎡あたり(kwh)	107.0	79.5	基準値(2008年~2010年度の平均値)から10%の削減
2	コピー用紙使用量	1人あたり(枚)	1,849	1,133	基準値(2008年~2010年度の平均値)から10%の削減
3	紙使用量	1人あたり(枚)	10,382	9,420	基準値(2008年~2010年度の平均値)から3%の削減
4	一般廃棄物排出量(新川オフィス)	1人あたり(kg)	114	115	基準値(2009年~2010年度の平均値)を越えない
5	水資源投入量(新川オフィス)	1人あたり(m)	9.04	9.31	基準値(2009年~2010年度の平均値)を越えない
6	電気使用でのCO ₂ 排出量	1㎡あたり(kgCO ₂)	43.15	38.22	基準値(2008年~2010年度の平均値)から10%の削減
7	ガソリン使用でのCO ₂ 排出量	1台あたり(kgCO ₂)	2,414.75	2,083.55	基準値(2009年~2010年度の平均値)を越えない
8	営業車の燃費	km/ℓ	11.72	13.17	燃費の改善:基準値(2009年~2010年度の平均値)
9	低公害車台数、ハイブリッド車台数	台数	—	—	・165台のうち、低公害車160台 ・HV車62台、EV3台 低公害車、ハイブリッド車の導入推進
10	グリーン調達比率	%	—	85.9	グリーン調達の推進

※1………No1の総エネルギー投入量は、電気使用量の集計。その他………No4、5を除き、ISO14001をととも取得しているグループ会社(MULエコビジネス、MULビジネス)を含む。

環境のために

◆環境会計

2012年度の環境会計は、以下の通りです。

(単位:百万円)

環境保全コスト		
分類	主な取り組み内容	2012年度
事業エリア内コスト	公害防止(エコカーリース料)	78
上・下流コスト	引揚機の処分費用	225
管理活動コスト	ISO事務局コスト、環境マネジメントシステム維持運営コスト、CSRレポート作成コスト、環境教育コスト 他	7

(単位:百万円)

環境保全に伴う経済効果	
主な取り組み内容	2012年度
中古部品売却益(MULエコビジネス)	34

ISO14001の認証

三菱UFJリースでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を2001年に取得しています。2012年11月には「第4回更新審査変更審査」を受審し、承認されました。



ISO登録証

環境教育

三菱UFJリースでは、社員一人ひとりの環境意識を高めるため、環境教育や啓発活動を推進しています。

全社員は環境方針を記した「環境方針カード」を常に身につけるとともに、3ヶ月ごとに設定している「グリーンの日」には、全社員に「環境かわら版」を配信しています。



環境方針カード

「環境かわら版」は、当社が実施している環境活動やさまざまな省エネ情報、社員のボランティア活動などを紹介し、環境活動への参加も推奨しています。

さらに、e-ラーニングによる環境教育プログラムを全社員に実施しています。また、環境に密接に関連する業務(リース終了物件処理業務、建設リサイクル法・土壌汚染対策法の対象物件処理業務など)に従事する社員には、特別の教育・訓練とスキルチェックシートによる認定を行っています。



環境かわら版



環境事故・法令違反

2012年度は環境事故・法令違反はありませんでした。今後も環境事故の防止と、法令遵守を徹底してまいります。

◆環境法令一覧表(一部抜粋)

環境影響	適用される法	管理点
1 廃棄物	廃棄物処理法(第12条3項)	産業廃棄物の運搬・処分を他人に委託する場合は、定められた資格を有する業者であること。
2 廃棄物	廃棄物処理法(第13条の3、第19条の5)	マニフェスト管理(報告・保存・管理などの義務あり)。
3 廃棄物	廃棄物処理法(第16条)	廃棄物不法投棄の禁止。
4 建物工事発注、廃棄	建設リサイクル法	一定規模以上の建築工事(新築・増築、解体など)は、 (1) 知事への届出。 (2) 分別解体・再資源化に関する費用負担。 (3) リサイクル建材の使用などによる再資源化の促進。
5 廃棄物	家電リサイクル法	特定家庭用機器は、 (1) 長期間使用し廃棄物の排出を抑制。 (2) 廃棄する場合は家電リサイクル法により適切に処理。
6 廃棄物	フロン回収破壊法	業務用エアコン、業務用冷凍・冷蔵庫、自動車用エアコンなどのフロン内蔵物件は、 (1) 適正・確実な回収・破壊措置。 (2) フロン類の排出抑制(一部、廃棄やリサイクル目的での譲渡に回収依頼書などが必要)。
7 土壌	土壌汚染対策法	土地の所有・投資は、土壌汚染対策法の調査、または指定区域になるおそれのある土地でないことを確認。
8 廃棄物	自動車リサイクル法	使用済自動車のリサイクル・処理は、適正業者によって適正・適法に行われているかを確認。
9 廃棄物	PCB廃棄物特措法	PCB廃棄物は適正処理し、譲渡・譲受は禁止。保管の届出、処分期限、合併・分割の届出などの適正管理。
10 大気	自動車NOx・PM法	事業活動に伴うNOx・PMの排出抑制計画やその実施状況を知事に報告。
11 エネルギーの使用	東京都環境確保条例	ビルオーナーが整備した温暖化対策への協力推進義務。温暖化対策の計画書を作成・提出・推進。
12 エネルギーの使用	千代田区地球温暖化対策条例	毎年、事業所の環境教育・地域貢献・環境活動など温暖化配慮行動の計画及び前年度実施状況を報告。

土壌汚染対策

土地購入や土地を対象とする投資に関して、土壌汚染対策法に則った適正な運用を厳守しています。2012年度の該当する案件には地歴調査などを実施し、土壌汚染の可能性が低いことを事前に確認しました。

生物多様性に係るガイドライン

三菱UFJリースでは、地球環境負荷を低減し、生物多様性の保全に貢献するため、「生物多様性に係るガイドライン」を定めています。このガイドラインは、リース終了物件の3R(リデュース、リユース、リサイクル)や中古機器売買ビジネスをはじめとする「事業活動を通じた取り組み」に加えて、「オフィスワークの中での取り組み」の活動目標を明確化し、着実に実行していくことを目的としています。「オフィスワークの中での取り組み」としては、ガイドラインに基づき、森林生態系保全につながるFSC認証紙の積極的使用、コピー・紙・電気の使用量削減、グリーン調達、エコドライブなどを推進しています。

◆3R(Reduce・Reuse・Recycle)

リデュース 再リースや転売により製品使用期間を延ばして廃棄物を削減	リユース 再リース、中古機器売買などにより再使用	リサイクル 原材料として再資源化
---	------------------------------------	----------------------------

VA物件取得活動の推進

VA(=Value Asset)物件は、時間が経過しても資産価値が劣化しにくく、一般に長期にわたって使用することができる物件を指します。三菱UFJリースは、リース終了後に転売や再リースが見込めるVA物件を積極的に取得し、廃棄物の削減を通して環境負荷を低減した循環型社会の実現に貢献しています。

カーボンオフセット

地球温暖化対策として、近年、カーボンオフセットが注目されています。カーボンオフセットは、自らの活動によって発生するCO₂排出量を把握し、削減努力だけでは対応が難しい部分について、排出権などを使用し相殺(オフセット)する仕組みです。三菱UFJリースは、カーボンオフセットに関するさまざまなサービスをご提供しています。

「オフセットパートナーサービス」は、排出権付き商品の開発やイベントなどから排出されるCO₂排出量のオフセットについて、排出権の調達から管理までを全面的にサポートし、お客さまのご要望に合わせて最適なカーボンオフセットプランをご提案しています。そのほか、リース物件の利用によって発生するCO₂排出量をオフセットする「カーボンナチュラルリース」なども展開しています。また、カーボンオフセットのさらなる普及を図るため、2012年5月、当社主催の「第2回カーボンオフセットセミナー」を開催しました。



第2回カーボンオフセットセミナー

省や地方自治体のほか、さまざまな業種の企業から講師を招き、カーボンオフセットの取り組み事例や、国・地方自治体の最新の動向などについて講演を行いました。参加者からは「具体的な事例を用いた説明で理解しやすかった」「カーボンオフセットの必要性・有用性を一層強く感じた」などの声が寄せられました。

山梨県南アルプス市役所 総合政策部 地球温暖化対策室 環境政策担当 **樋泉 孝司** 様

VOICE カーボンオフセットセミナー講師の声

南アルプス市では、温暖化対策事業の一つとして、農産物の栽培時に使用する重油の代替燃料としてCO₂の排出を見込まない木質バイオマスエネルギーの導入を進めています。ここから栽培された特産品の「さくらんぼ」などに市が保有する排出権(J-VER)を活用し、「カーボン・オフセット認証ラベル」を付けて販売したところ、多くの方々に温暖化対策と地域活性化を結びつけた事例として周知できたほか、市の農産物のPRにもつながり、生産者の方にも喜んでいただいています。

2013年4月より従来の国内クレジット制度とJ-VER制度を統合させた「J-クレジット制度」が始まりましたが、クレジット制度が一本化されることでカーボンオフセットの普及がより一層進むことを期待しています。

◆カーボンオフセット

三菱UFJリースのカーボンオフセットのロゴマークです。このCSRレポートの印刷工程(原材料の調達~印刷工程)において発生するCO₂もカーボンオフセットしています。

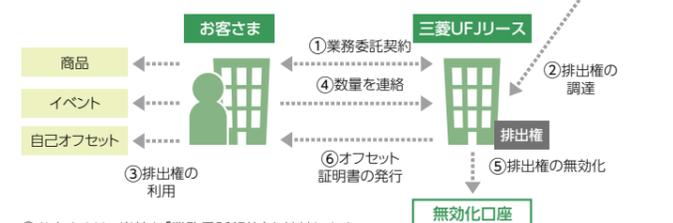


カーボンオフセット <http://www.lf.mufj.jp/natural/>

◆排出権割当量の推移



◆オフセットパートナーサービスのスキーム



- ①お客さまは、当社と「業務委託契約」を締結します。
- ②当社は、お客さまに代わって排出権を調達・管理します。
- ③お客さまは、排出権を利用します。
- ④お客さまは、利用した排出権の数量を当社にご連絡いただけます。
- ⑤当社は、排出権を無効化する手続きを行います。
- ⑥適切な無効化*の手続きの証明として、お客さまへ「オフセット証明書」を発行します。

*無効化とは…排出権の価値をゼロにすること。無効化量に応じたCO₂排出量が相殺されたことになる。排出権を政府保有口座へ移転(償却)する手続きも無効化の一つ。
※当サービスはお客さまに排出権を譲渡するものではありません。

環境のために

廃棄物処理

リース終了物件は徹底した3Rを行います。リユースできない物件は、廃棄物処理法などの環境法令・条例を遵守して適正に廃棄しています。廃棄物処理委託会社については、実際に現地調査を実施し、法令遵守やリサイクルへの取り組みなどについて三菱UFJリースの諸規程に基づき厳格に選定しています。現地調査時のチェック項目は、財務状況や保有設備、リサイクル率、地域との調和や安全対策など、各種ガイドラインや法令などをベースに当社独自の項目を加え、常に見直しを図っています。また、選定後も定期的に現地を視察し、運用状況を確認して委託継続の可否を決定しています。

ESCO事業

ESCO (Energy Service Company) 事業は、ビルや工場、ホテル、病院などの施設をまるごと省エネルギー化し、環境負荷低減とコスト削減を実現するサービスです。お客様の施設に応じて省エネルギー化の改修工事に必要な技術、設備、ファイナンス機能、効果保証、保守・管理などを包括的にご提供します。三菱UFJリースは、ESCO業界黎明期の1999年より業界へ参入し、産官学民のネットワークを構築することで取り扱い件数の累計は414件(2013年3月末現在)と業界トップクラスの実績を積み重ねてきました。また、中国において日本のESCO推進協議会に相当するEMCA(中国省エネルギーサービス産業委員会)に加盟するなど、海外でのサービス拡大にも努めています。

◆事業フロー



◆ESCO事業の残高推移



環境ファイナンス

三菱UFJリースは、廃棄物処理施設や、風力・太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの発電設備など、環境ビジネス事業者を対象としたファイナンスサービスをご提供しています。事業の収益性や安定性に重点をおいた「事業性担保融資」などさまざまなファイナンス手法を活用し、環境ビジネスの事業計画実現を支援しています。

◆融資実行までの流れ

※標準的な案件の場合(数社での協調融資取り組みの場合)



再生可能エネルギーへの取り組み

太陽光や風力、水力などの再生可能エネルギーは、資源が枯渇せず、環境負荷の少ない電力源として、将来、わが国のエネルギー自給率の向上や地球温暖化対策などに大きく貢献するものと期待されています。三菱UFJリースは、再生可能エネルギーに関する事業を積極的に推進しており、その取り組みの一つとして、2013年4月に三菱マテリアル(株)と共同で太陽光発電プロジェクトを開始しました(稼働は2014年1月以降を予定)。発電した電力は、現地の電力会社に全量売電します。そのほかにも、賃貸住宅の屋根を活用した太陽光発電プロジェクトや愛知県田原市で実施予定の国内最大規模のメガソーラープロジェクトへの参画など、再生可能エネルギーへの取り組みを通じて、地球環境保全とエネルギー問題の改善に向けて貢献してまいります。



賃貸住宅の屋根を活用した太陽光発電プロジェクト



メガソーラープロジェクト建設予定地(愛知県田原市)

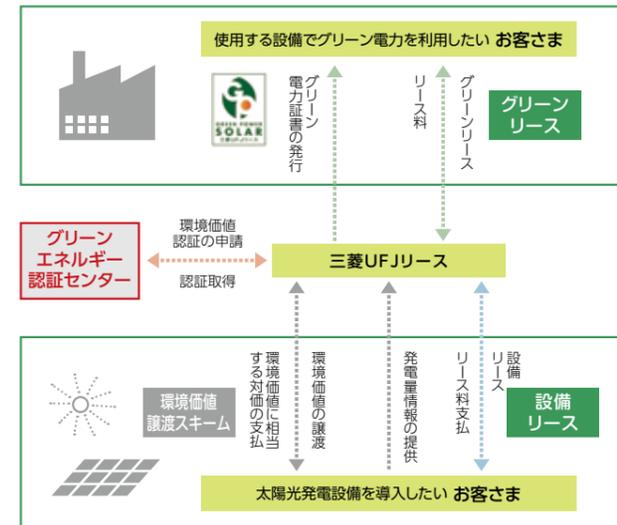
グリーンリースと
グリーン電力証書化サービス

グリーンリースとは、お客様のリース契約に「グリーン電力証書」を割り当てることで、リース物件が使用する電力の一部を、風力・バイオマス・太陽光発電などの環境への負担が少ないグリーン電力によってまかなうサービスです。グリーンリースをご利用いただくことで、お客様は手軽にグリーン電力を利用し、環境貢献に取り組むことができます。

また、三菱UFJリースはグリーンエネルギー認証センターよりグリーン電力証書発行事業者として認定を受け、お客様がリースで導入された太陽光発電設備から生まれる電力の環境価値を買い取る「グリーン電力証書化サービス」もご提供しています。これにより、太陽光発電設備を導入するお客様の負担を軽減します。2つのサービスにより、グリーン電力発電を行うお客様と、グリーン電力の利用により環境貢献に取り組むお客様をつないでいます。



◆グリーンリースとグリーン電力



持続可能な社会の形成に向けた
金融行動原則

三菱UFJリースは「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」に署名しています。この原則は、金融機関に対して、持続的な社会形成を目指した行動の指針を示し、環境を意識した活動の実践を呼び掛けるもので、日本版環境金融行動原則起草委員会(事務局:環境省)が策定しました。当社はワーキンググループに参加し、起草の段階から協力しています。

TOPICS 環境関連のさまざまな活動

2012年7月に固定価格買取制度「FIT (Feed-in Tariff)」が施行されたことをきっかけとして、需要が高まっている再生可能エネルギー発電設備の設置・運営に三菱UFJリースは積極的に関わっています。その中で、2012年度の主な取り組みをご紹介します。

◆IEA World Energy Outlook 2012 workshop

2012年5月、国際エネルギー機関(IEA)の主催するワークショップが東京で開催されました。米国、イギリス、フランス、日本など世界18カ国から、環境政策責任者や学識者、民間企業などが集まり、当社も参加しました。セッションでは、地域・燃料種類ごとの削減余地についての現状認識、また、再生可能エネルギーの普及や省エネ対策の設計、行政支援の効果と改善点などについて討議されました。討議内容は、エネルギー分野で世界的に影響のある出版物「World Energy Outlook 2012」に紹介されています。



IEA World Energy Outlook 2012 workshop

◆日経エコロジー FIT 2012

2012年6月、日経BP社が主催する環境セミナーに当社の社員が講師として招かれ、「FITにおけるリース&ファイナンスの活用方法と金融機関から見た事業リスク」をテーマに講演を行いました。セミナーにはほかにも資源エネルギー庁や民間企業から講師が招かれ、発電事業への参入を検討している企業などが多数参加しました。



日経エコロジーFIT 2012